

## 平成20年度第3回

### 小金井市立はけの森美術館運営協議会議事録

開催日時 平成21年3月19日（木）午後5時～6時30分  
開催場所 小金井市役所本庁舎3階 第二会議室  
委 員 出席：鉄矢悦朗会長、千村裕子委員、小柳 清委員、  
富士道正尋委員代理教育委員会指導室長補佐加納一好  
欠席：宮村令子副会長、淀井彩子委員  
事務局 出席：大野 玲学芸員、神津瑛子学芸員、  
鈴木雅子文化推進係長、天野達彦事務担当  
欠席：薩摩雅登学芸顧問

#### 議事内容

【鉄矢会長】 開催委員出席定数を満たしておりますので、平成20年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催します。

では、配付資料の確認をいたします。はけの森美術館運営協議会の議事録、第2回の議事録。資料1という、左上でとじたものが1つ。議事次第。運営協議会の入館者数調べとなっている横の表組みのもの。事業予算のA4縦組みの表組みのもの。以上、お手元にございますでしょうか。

きょうは、6時半ぐらいをめどに、終わらせたいと思います。1時間半ありますので、そんなに慌てなくてもいけるとは思いますけれども、ご協力お願いします。

では、平成20年度の事業実施状況について、事務局のほうから説明していただきます。よろしく申し上げます。

【大野学芸員】 学芸のほうから、前回の第2回運営協議会でご報告しましたものの続きから、前回は12月でしたので、1月から実施しました所蔵作品展Iからご報告したいと思います。

担当の神津のほうから報告します。

【神津学芸員】 ギャラリートーク、ミュージアムツアーとワークショップを幾つか行いまして、ギャラリートーク、書いてあるとおりなんですけど、ちょっと前回よりは少なかったんですが、充実した参加の方がありました。

ワークショップは、前回の8月に行ったコラージュのワークショップを、

もう一度開催したんですが、季節の関係で中庭では開催せずに、2階の会議室のみで、15名の募集で12名の参加、この写真のとおり楽しく行われました。

講座のほうは大野の担当ですが、中村研一の手紙を読むということで、これも前回、8月に開催したものを、第2弾ということで開催しました。

緑中学校の職場体験学習というのは、職場体験学習をさせてくださいというふうに中学生から連絡がありまして、この2日間、9時から4時まで、結構びっちりだったんですが、美術館の業務を体験するということでした。

【鉄矢会長】 中学生は何人ですか。

【神津学芸員】 これは3人です。

【鉄矢会長】 3人ですか。大変だったでしょう。

【神津学芸員】 そうですね。閉館中のほうが美術館の業務としてはおもしろかったのかもしれないですが、いろいろ体験するということでした。

一番おもしろかったのは、多分、陶器を実際に扱うということもしたのですが、ちょうどその陶器を扱うところの写真があります。たしか、昨年度につづいて2回目だったと思います。

【鉄矢会長】 そうですか。

【神津学芸員】 はい。2回目です。

【鉄矢会長】 わかりました。

【神津学芸員】 2ページ目になるんですが、前原小学校と南小学校に出張授業に行っていました。

これは、実は来館する予定だったのですが、裸婦が多くてだめになったという経緯がありまして、あえて小学4年生にヌードが多い展覧会を見せる理由というのを保護者に説明できないというふうに学校側から申し出がありまして、中止するのはもったいないので、できれば来ていただけないかというふうに言うてくださったので、出張授業に行っていました。

内容が、ここに書いてあるとおりなんですが、せっかく美術館に行くのではなくて、学校に行くのであるからには、ちょっと変わった視点で絵を見るということをして、できれば美術館に来てねというふうな導入授業としてできたらなと思って、こういう内容にさせていただきました。

結果、後ろのほうに書いてあるんですけど、授業を受けた4年生児童が友達同士で来てくれたり、あるいはご家族の方と一緒にチケットを持って来

てくれるということがあったので、とてもよかったのかなと思います。

ちょっとわかりづらいんですが、絵画のクローズアップのカード、何が書いてあるかわからないような絵画のカードを作って、パズルをして遊んで、何が書いてあるか、いろいろ想像してみたり、あとはその日、1日だけの絵を作ろうということで、裏返してにして作るような、いろいろ、ちょっとワークショップのようなことをやってきました。

こちらは来年度、2009年度はバスの借上げ予算がついているので、後から次回展覧会のところで説明があると思うんですが、学芸員が出張授業で学校に行くというのと、学校が鑑賞するために美術館に来るとというのが、きちんと続いていけるかなと思います。これが3月8日までの「一枚のラ・ヴィ」展で開催したことになります。

次が所蔵作品展Ⅱ「中村研一、春の特集～花～」ですけれども、週明け24日から始まります。

【鉄矢会長】 今年度事業の、とは言っても来年度事業にかかる部分も含まれています。

【大野学芸員】 年度をまたぎますので、今年度の最後の事業がこれになります。一部は結果報告ではなくて、これからのものです。

お手元のチラシをごらんください。内容については、こちらに書いてあるんですけれども、特に今回、新しく試みるのが、チラシの裏、右側に書いてあります同時開催イベントの1つ目「寺子屋・はけ美」です。ですので、こちらについて、少し詳しくご報告したいと思います。

昨年度に実施しました「堂本印象美術館展」のときに開催しましたシンポジウム「小さな美術館からの声～市民とともに歩む今とこれから」について記録DVDがありますので、そのダイジェスト版を見ながら、参加者の方と意見交換したり、今後のはけの森美術館の方向性やよさについて考えるような、勉強会のような、交流会のようなものがしたいと思っています。

「趣旨・目的」というふうに書いてはいますが、こちら側としては、2つ目の丸のところに書いてありますが、今後も継続して行って、提言にもありますような市民参加・参画型美術館というものになることを念頭に、将来的には、この「寺子屋・はけ美」から美術館サポーターですとか、展示解説ボランティアのような方々が育っていけるような、そういう契機になるような会にしていきたいと思っています。ですので、ワークショップとも講座

とも違うという意味で、新しく「寺子屋・はけ美」という企画名になっています。

もう一つ、無料開放というのがチラシに載っています。前回の委員会でもご報告しましたように、無料開放しますと、たくさんの市民の方がいらしてくださいます。それをもう一つ増やそうということで、けんぼしゃん誕生日記念として、中村研一の誕生日である5月14日の直近の土曜日か日曜日に無料開放日を設けるということです。今年は5月16日の土曜日に無料開放日を設定しました。これは毎年続ける予定です。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。今、参考に、先ほど学芸員の神津さんのほうからあった第四小学校の研究授業のほうにもはけの森美術館の学芸員の名前も併記されて指導案が出ております。それから、千村委員のほうに行っています『美術の窓』のほうにも、こだわりの美術館の1枚ということで掲載されたということも参考資料として回覧いたしますので、時間を見つけてごらんください。

今のところまでで、20年度実施状況について、少し年度がまだ残っていますので、予定も入りましたけれども、ご質問等ありますでしょうか。ご質問、ご意見は？

小柳委員は、質問も意見も、多分、館長なので、なかなか難しいと思いますけれども、感想でも構いません。学芸員のやってきた取り組みがポジティブなものに受け入れているのか、それともネガティブに受けているのか。このまま議事録に残らないですと、どっちにもわかりませんので、いいんじゃないかなとか、まずいいんじゃないかなとか、何か発言していただきたいと思います。ご意見、お願いします。

【加納指導室長補佐】 それでは、今、学校関係のところは2つ出てきたので、こちらの指導室としても、学校のほうとしても、ほんとうに有意義な活動ができているなと思っています。

まずは、中学校のほうの職場体験ですけれども、これも図書館とか美術館だけでなく、指導室のほうでも、教育委員会でも行っていたんですけれども、やはり子供たちが、中学生が、さまざまな職場体験をするということで、美術館でのこの体験も非常に有意義なものだったのではないかなと考えています。

もう一つ、4年生が行かせていただいていた、今回はちょっと、展示されている作品に裸婦が多かったということで難しかったんですけども、でも、例えば、私も小金井第四小学校の研究授業とかを見せていただいて、学校でできない、あるいは図工の教員ができないような、ほんとうに専門的な知識を生かしていただいた、そうした体験的な活動をやっていただいている、非常にありがたく思っていますし、学校のほうも継続してまた、4年生になったら、こういう鑑賞の活動があるんだよということで、鑑賞も1つの重要な学習の部分で、なかなか学校の中ではできないところ、また本物に触れるというところでも、非常に大切な場面だと思いますので、学校からの要望が今後、どんどん増えていくと思いますが、今後もよろしく願いできれば思っております。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

【事務局天野】 市議会でも、はけの森美術館についての質疑がされていて、今、小学校4年生を対象として実施している講座なんですけれども、それにあわせて、中学校へも広げていかないかという質問が出ています。その点については今後検討したいということで答弁してありまして、その方向性も、今後探っていく必要があるのかなとは思っています。

【鉄矢会長】 1クラスずつ3回ということは、2人で40人ぐらいとか、30人ぐらいを見ていくわけですね。

【神津学芸員】 はい。担任、図工の先生と私と。

【鉄矢会長】 先ほど加納さんがおっしゃったように、学校ではできないということをボランティアなどが加わりうまくできるといいと思いました。既にやっているんですけど、多分、マンパワーが不足するんだと思うんです。これ以上やろうとして、中学校から来るとかいうと。そのときに、近隣の大学生を使うとか、近隣の中学生を使って小学生のワークショップなんかもできたりするとおもしろいかもしれないですね。そのままだ拡大するには、少しマンパワーのことをどこかで考えないとパンクしてしまうような気がしましたので、コメントさせていただきました。

【千村委員】 美術館に親と一緒にいたりする子はほんとうに少ないと思うんですね。もうほとんどいないんじゃないかと思うんです。それで、やっぱりこういうところで実際の画家の、美術館が掲げている作品というものを

見ることも大事だけれども、自分が見た印象というものがどういうものであるのかというのを他人はどういうふうに見ているんだろうかとか、自分が見たものとまた違う意見ってどんなことなんだろうかという、そういう見方からの子供たちの話し合いというのがすごく大事であって、「あ、そういう見方があったのか。」とか、「自分はそんなところ全然気にしてなかったけど、なるほどな。」みたいな気づきが、とてもこういう子供たちの鑑賞に意義があるんじゃないかなとすごく思いますので、やっぱり見てから子供たちに話させる。書かせるというのもいいんだけど、話させるという、それをみんなで聞くというのもすごく大事じゃないかなと思います。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。非常に運営委員の方がポジティブ、評価が高かったという意見が出ました。今後もぜひ継続して、マンパワーがパンクしないように。頑張り過ぎて翌年疲れてしまうのではなくて、継続して少しずつ安定低成長というのが、これからのキーワードかと思っています。

【千村委員】 子供たちも、この新鮮な鑑賞のそういう目が育つきっかけになると思いますけれども、小金井には結構、公民館で中高年の人たちの活動がすごく活発なんですよね。油絵描いている人や日本画描いている人や、すごくエネルギーに活動している人が多いんですね。そういうところと、この美術館とが、あんまり接点がないような気がするんです。小学生が対象のワークショップをすることもちろん重要ですけども、そういう方々の鑑賞会みたいな、そういうものもあってもいいんじゃないかな。そうすると縦横の交流ができるんじゃないか。今は美術館と公民館の活動みたいなのは、あまり接点がないという感じがするんで、そういう人がやってきて、何か活動にかかわったりみたいになると、少し市民参加の間口も広がるかなみたいに思いますけどね。どんな具体的な方法があるかと言われると、ちょっと困りますけれど、なかなか足が遠い人たちが足を踏み入れてくれるかなと思ったりします。それは、よく道で出会ったりなんかする、なかなか気おくれがしてというふうなのを聞くんで、さっと鑑賞に来れるみたいな雰囲気の間合いがきっかけとなるんじゃないかなと思うんですけどね。

【鉄矢会長】 ほかに、よろしいでしょうか。では、議事内容（2）番、21年度の事業について、こちら事務局のほうから、学芸員のほうから説明してください。

【神津学芸員】 21年度1つ目が企画展Ⅰになりますが、「田中絹代展」、

これは仮のタイトルなのですが、7月11日から8月16日までの短い期間なのですが、この概要にもあるとおり、田中絹代生誕100周年に合わせて、田中絹代という女優を紹介するという展覧会を行います。

田中絹代、少し関連のあるということで、はげが舞台となった小説『武蔵野夫人』というのがあるんですが、前回の運営協議会でも説明したんですけども、大岡昇平という小説家、当館とゆかりのある小説家なのですが、彼も生誕100周年に当たるということで、『武蔵野夫人』と、あと武蔵野に特化したワークショップや展示も関連企画として行う予定です。

ここにずらずらっと書いてあるんですが、映画上映会『武蔵野夫人』と、あともう一本、何かできるだろうということが計画してあります。先ほど公民館と上映というふうにおっしゃっていましたが、公民館で毎月1本、映画上映会しているんですが、6月と7月の上映会を田中絹代の映画にさせていただくということが決定しております。

ゲストトークとして、キュレーターに入ってください、田中絹代メモリアル協会の会員さんをお招きすることが決まっています。講演と散歩ワークショップ。講演と散歩が2つ、『武蔵野夫人』関係の企画になります。

ワークショップとして、田中絹代映画の台本を朗読するというのを企画しています。台本自体はまだ決まっていらないんですが、明るく楽しく、読んでいておもしろいものを、2階の会議室になるんですが、そこでちょっと、台本を読むということで味わってみようという企画があります。

以上です。

**【鉄矢会長】** この講師の方はどんな方なのですか？

**【神津学芸員】** 失礼しました。劇団徒紀の奏という、この後の別のワークショップのときにも、またご説明しますが、徒紀の奏という劇団の代表をしてらっしゃる方で、10年くらい小金井に住んでいたという方、今は別のところにお住まいですが、現代座がNPOになる際に演出家として入っていたという方です。

**【鉄矢会長】** わかりました。ありがとうございます。

**【神津学芸員】** 引き続き、所蔵作品展Ⅲが、その後、9月5日から、10月31日までになります。こちらは、内容はまだ未定なのですが、秋の展覧会第1弾ということで…。日付が間違っています。失礼しました。10月31日ではなくて、9日からです。

こちらは通常所蔵展で行っている企画のほかに「寺子屋・はけ美」の第2回と、あと季節に合わせた模写のイベントをまた行うといったことを……。

あと、コラージュのイベントもまた開催すると思うんですが、連続して同じ企画というわけではなくて、例えば、秋なので季節に合わせて野川に出かけるとか、いろいろ、そういった、同じものの継続なんですが、少し違ったテイストでというような企画をしております。

【鉄矢会長】 説明の途中ですけれども、縦組みの表の中で、美術館事業予算の部分と日程のというところで所蔵作品展Ⅲというのは予算上は入っていないんですか。

【神津学芸員】 予算上では所蔵作品展Ⅰに当たるイベントが……。

【鉄矢会長】 所蔵作品展Ⅰに当たるわけですね。わかりました。予算上は、これがⅠに当たるのが、これをⅢと言っているわけですね。

【神津学芸員】 タイトルとしてはⅢになります。

【鉄矢会長】 わかりました。

【神津学芸員】 こちらは10月31日まででございます。

【鉄矢会長】 次の浜松市のほうが、10月14日じゃなくて、11月14日からの間違い。

【神津学芸員】 はい。11月の間違いです。

【鉄矢会長】 はい。了解です。訂正お願いします。「浜松市美術館ガラス絵展」のお配りの5ページのが間違っており、10月14日ではなくて、11月14日から1月25日と。では引き続きお願いします。

【大野学芸員】 「浜松市美術館ガラス絵展」ですけれども、これは前回にも少し報告しましたので内容については省きますが、関連企画のほうだけご説明したいと思います。

ガラス絵創作のワークショップを、浜松市美術館の学芸員を招いて行います。こちら、年齢制限なしで実施する予定なんですが、これとあわせて、もう一つ別の企画があります。「美術館で見る・描く・学ぶ」という仮のタイトルで、多摩・島しょ子ども体験塾から助成金をいただいている事業があります。市内小学校4年生のための創作と一体となった鑑賞教育なんですけれども、今年度は助成いただいた結果、全校の小学校4年生に来ていただくためのバス借上料がつかしました。来ていただくだけではなくて、事前に各学校の図工の授業で先生の指導のもとで作ってみて、それから美術館に来て見

てもらおうというのができるんじゃないだろうかというような話を先生方とのミーティングで話しているところです。今のところ、浜松市美術館の学芸員さんも、これに対しては積極的で、何とか日を合わせて、できれば一般向けとは別に、事前に小学校の先生方に向けたガラス絵創作のためのワークショップを行って、それぞれの学校で児童を指導していただけたらいいんじゃないかというようなお話が出ています。

【鉄矢会長】 はい。ありがとうございます。

【大野学芸員】 そのまま引き続き、年度末には、また年度をまたぐ形で、2010年所蔵作品展Ⅰがありますが、これが予算上では所蔵展Ⅱになっております。

【鉄矢会長】 2010年だけど、予算上は2009年の事業ですね。

【大野学芸員】 はい。

【鉄矢会長】 こちらは、表のほうも、所蔵作品展Ⅱと書いてあるのは、実はⅠであるということですので了解します。今の事業は、前回の運営協議会のほうでも大まかには説明してありましたので、今あったワークショップ等細かい部分、新しい企画が煮詰まってきた部分に関して、何かご質問やご意見ありましたら、お願いします。もちろん、ご提案でも。

【加納指導室長補佐】 1つ質問で。この11月から、美術館のほうに、またお願いすることになるんですけれども、そのときの展示というのは、ことしのような形で裸婦になったりということはないような配慮はしていただけるということでしょうか。

【大野学芸員】 はい。ガラス絵展で、いろいろな作品がありますので、裸婦がないとは言えないんですけれども、ガラス絵を鑑賞する展覧会になっています。今回のこともありましたので、事前に先生方に1年間の美術館の展覧会のスケジュールをお伝えして、どこの展覧会に来ていただいて、鑑賞教育をやりますかということと一緒にご相談して進めていこうと思ひまして、事前に2月に先生方にお集まりいただいて、予定を報告したところ、ガラス絵がいいというご希望がありまして、じゃあ、そこでやりましょうということになりました。

【加納指導室長補佐】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 僕、裸婦のこの鑑賞に関して、少し戻りますけれども、非常にしなやかな対応だったと思っています。目くじら立てて「裸婦はアートで

ある」とやる手法もあるんだと思うんですけども、そうではなくて、しなやかに言って、ごく自然に、美術館に裸婦があることも知ってもらいたいと思います。それで、それもやっぱり「ラ・ヴィ」という生きるエネルギーであるとか、そういうものを感じるのが自然な格好で子供たちに伝わればほんとうはいいんだろうなと思っちゃいますね。それを、ただ無理やり入れると、やっぱりアレルギー持つ方もいますので、すごいクレバーな対応だったと評価しております。

私から提案は、田中絹代の『武蔵野夫人』、ぜひ近所の本屋さんへ買いに行けるとか、買ったものに自分がワークショップで、あるいは散歩したときに、手紙を書いて、だれかにそれで郵便局に行って一気に送っちゃうとか、ぜひ美術館のやっていることが商工の役に立つような。というか、美術館に来て、美術館のお金だけ払って帰られるんではもったいなさ過ぎます。商工の人たちも考えなきゃいけないと思うんです。武蔵野夫人団地なのか。この期間にタイアップができて、『武蔵野夫人』を読んで、そこにどういうメニューがあるのか、僕も知らないですけど、食べるシーンはないのか、田中絹代が食べているシーンがあるのかわからないんですけど、何か、せっかくだから、そういうものを小金井市の市民の部分ですね。商工の人というのは。その人たちも、やっぱりもう一回本を読んだらこうだったとかいうふうになるように、ぜひ広がりを持ってやらないと、これだけ短期ですから、短期な分、どこか広げてピークを持てるのかなと思っています。いいイベントですね。

【千村委員】　そうですね。私もこの「田中絹代展」は、すごくおもしろい企画だなと思って期待するんですけども。

例えば、今、鉄矢先生がおっしゃったように、公民館で2本上映の予定ということですね。そのときに今まで公民館の映画というのは、ただ公民館で何時から何時まで、土曜日に2回やるんですけど、何という映画と出るだけなんですけど、このときにしっかり、ここの企画の『武蔵野夫人』との関連の、ポスターだけでなく、何かつなげてキャッチできるような仕組みがあるといいなと思います。ただポスターで、映画やりますと言ったら、いつものような流れでやっている映画だなと思うんですけど、そうじゃなくて、美術館で企画して、しかも『武蔵野夫人』という小説と関連あるんだみたいな、膨らませた活用ができたらいいなということが1つと、それから散策というのも、すごいおもしろいなと思うんですけど、これは希望者みたいなのを、希

望者が講師と一緒に階段を上っていったりとか、あそこの関連のある家のあたりに行ったりとか、そういったようなことをイメージしていらっしゃいますか。

【神津学芸員】 はい。主人公2人がともに歩いた恋ヶ窪までの道を、ここにいる鈴木さんなんですけど、講師として、当時からこういうふうに変わっているとか、あと変わっていない部分を若干、どうしてもあると思いますので、こちらをご紹介しますながら、ゴールを美術館にして、そこで田中絹代展を見て解散ということを考えています。

【千村委員】 私たち、こがねい女性ネットワークというところで、聞き書き女性史というのを2冊作ったんですけども、その聞き書きの女性史の中に出てくる製糸工場——鴨下製糸工場とか、農工大とかを、やっぱりこのように散策みたいなのをしたんですけど、すごく希望者が多くて、解説もなかなかおもしろかったので、こういう企画には結構集まってくるかなという気が。そのときはバスは市役所の福祉のバスを借りて、2回やったと思うんですが、ここのバスはそれではないんですね。

【神津学芸員】 このときは歩きで、散歩になります。

【千村委員】 歩きでね。そうですね。ここのバスというのは、違うものでしたね。そうすると、人数制限しないと、ちょっと大変だけど、そんなにいっぱい来るかどうかわからないけど。

【神津学芸員】 そうですね。それを踏まえて考えて。

【千村委員】 2回に分けるとか。あんまりぞろぞろとというのも。

【大野学芸員】 確かに、小金井市の場合は、たくさん集まるかもしれないですね。こういう企画は。

【千村委員】 他市から武蔵小金井駅に集まって見学するなんていうぐあいですから、この市の人より、ほかの市の人のほうが注目したりなんかするかもしれないし、それで、ただ歩くんじゃなくて、メモしたりとか、こういう点はどうでしたかみたいなのを書いたりとかね。

【神津学芸員】 ここで、このようなせりふがみたいなの。

【千村委員】 そうそう。そういうのもあるとおもしろい。すごく楽しみです。おもしろいですね。田中絹代もなかなかいいしね。

【鉄矢会長】 どうも私、商工が頭から離れないで、今、話を聞きながら、ちょっと違うことを考えて申しわけないです。武蔵野野菜というのはないん

ですね。江戸東京野菜なんですね。

【神津学芸員】 ただ、食べているシーンは……。

【鉄矢会長】 ちょうどお中元のシーズンなんで、お中元にこのパンフレット。展示会のパンフレットと、『武蔵野夫人』と、武蔵野関係の江戸東京野菜のパッケージでやってくれて商工に持っていくとか。商工って農ですね。農のほうに持って行って、パッケージとして、うちの企業たちが、うちの市内の企業さんが、お中元流すときには、それやるとか、そういう手法を何とかしていかないと。

【千村委員】 どういうものが出てくるかわかりませんが、江戸野菜の会というのが、今、今度、桜の時期にお弁当の素敵なチラシが出て、中見たら、江戸野菜を使ったお弁当とか宣伝していますね。あんなふうに、小金井の江戸野菜の会みたいなのがあるんですよ。それで一生懸命、ケーキというか、スイーツと弁当みたいなのにごくこだわって、目下研究中なんで、『武蔵野夫人』でこの時期やりますけど、何か一緒に、スイーツとか何かアイデアがありますか？みたいに行っていったら、多分、一生懸命取り組んでくれると思います。宮本さんという女性の方が代表というかね。

【鉄矢会長】 それは商工に振ったほうが良いと思います。それは学芸員がやると、忙し過ぎますね。

【千村委員】 そうですね。何もやらないで言ってしまうんですが。

【鉄矢会長】 商工の、多分、農政のほうかもしれないですけど、農業をやっている方とか、いろんな方に、パンフレットと本のセットとか、そういうものをうまくやって、あとは商工会のほうで、いろんなところでお中元を外に出すときに、発送するだけでも、本とごろごろ野菜が入っているだけでも、多分おもしろいと思います。

【千村委員】 多分、町おこしの人なんだろう、それは。農業の人も入っていますけれども。ちょうど小金井にとって、だから。

【鉄矢会長】 すいません。ここもちゃんと……。

【千村委員】 ちょうど時期的にも、みんなが夏の余裕のある、ちょっと遊んでみたい時期で、いいですね。

【鉄矢会長】 経済状況ですから、地域に金を回すとか、美術館の近くとか。

では、議事録難しそうですね、今の。補足してください。かぶせてしゃべってすいません。

(3) 番の21年度の予算についてというのに行ってよろしいでしょうか。いや、違うか。教育普及事業が抜けていますね、今の最後の。

【神津学芸員】 展覧会とは関連していない別立ての事業として。

【鉄矢会長】 お願いします。

【神津学芸員】 教育普及事業、今回、今出ているものとは別に、もう一つある予定なんです、今の企画は資料が、資料、そのまま6ページになります。よろしいでしょうか。

仮のタイトルなんです「はけ美・演劇遊び」、美術館の演劇ワークショップというものを企画しています。6月の閉館中の空っぽの状態の1階の展示室を使って、演劇のワークショップを行おうと思っています。こちらの講師として、先ほどお名前が挙がりました、酒井孝宏さんという方を呼ぶ予定になっています。

こちら、書いてあるとおりなんです、演劇を通してコミュニケーションを図る、出会うという、いろいろなことに。それから一番の目的は、できる限り楽しく遊ぶことを最大の目的とするということを書いてありますが、美術館と演劇が出会って、そこで人と人が出会ってということ。あと自分の体を再発見するですか、自分の表現力を再発見するという企画でもあります。こちらが実施日程が、酒井さん、講師の方の希望の日程なんです、以下のとおりになっています。

参加資格のところ、年齢制限はなしと書いてあるんですが、とても小さいお子さんでも大丈夫だというふうに講師の方から言われています。ただし、小学4年生以下は保護者の方も一緒に参加することというふうになっています。

あと、抜けているんですが、募集人数は大体20人ぐらい。もし小さい、5歳、6歳のお子さんが多いようでしたら、25人ぐらいまでだったら大丈夫だろうということです。

こういった展覧会に付随しない教育普及事業をするのは初めてだというふうに聞いているんですが、いろいろな意見を聞きながら、演劇というものをやってみたいなと思って、企画しております。

以上です。

【鉄矢会長】 何かご意見等ありましたら、今日の段階。21年度の事業の一環ですので。東京学芸大学に演劇講座がありますので、どうぞお使いくだ

さいというか、協力するかどうかわからないですけど、僕が担当じゃないんです。でも、あそこも地域に出たいという意向は持っているはずですので、中島先生という先生が、演ゼミって言われていますね。多分、演劇ゼミの人にとっても、違う種類のワークショップがあるとか、違う種類の先生と会うというのは、非常に僕は刺激があると思います。どうぞよろしくお願いします。

【神津学芸員】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】では、21年度の予算について。今度は資料はこちらの縦組みのほうでよろしいですか。

【事務局天野】今回、事業費の予算については、この一覧表をつけています。前回のときに、全部の予算書をお配りした経緯があるんですけど、予算書を全部お配りしたとしても、おそらく見方とか中身がわからないということで、今回は口頭で概略の説明だけさせていただきたいと思います。

今回、平成21年度の予算組みというのは、前回のときに、ちょうど予算編成の最中ということで、昨年といわゆる前年度と、今年度の予算と来年度の予算の大きな違いというのは、枠組み予算ということでして、当初、財政から、市民部全体での額の提示がありまして、それについては20年度の予算枠と同額が示されてございました。

それで、その中で、枠組みの中で、事業費につきましては、18年度、19年度の実績からすると、企画展が1つ減って、展示会は4回なんですけど、これまでは企画展が2回、所蔵作品展が2回ということで、都合4回展示をしていたわけですけれども、20年度については、所蔵作品展を3回、企画展が1回ということで、実質、事業の中身が後退というか、へこんだ状態になっています。来年度の予算要求するに当たって、学芸員から美術館の本来の形の企画展2回、所蔵作品展2回の4回にしていきたいという希望がありましたので、枠組み予算の基本的な考え方を理解していただくというようなことでのストーリーを作りまして、結果から申し上げますと、所蔵展2回の企画展2回ということで、従来の形に復帰というか、戻った形の予算組みになっております。

私ども予算枠が4つございまして、運営に関しましては、まず996万ということで、前年度比の0.8%増となります。それから、運営の中で0.8%増になった中で、学芸員さんの残業代の部分が、これまで運営協議会とか、あるいはそういう委員会に出席する費用分しか計上されていなかったんで

すが、その他の、実際、学芸員業務の中で、予算、残業代の部分も、若干ですけど認めてもらって、その分が増えているということでございます。

それから、維持管理に関することにつきましては、542万8,000円ということで、前年度比からすると42.1%減りました。この減った理由というのは、今年度、特別収蔵室のエアコンパッケージの交換工事を行い、今、順調に動いておりますけれども、その部分が完了し必要なくなったということで、その分が減額になっていきますので、これは中身は実質は従来の形と変わっておりません。

それから、事業につきましては、この一覧表、事業費の予算の中で入っているんですけど、前年度につきましては500万だったものが、今回、846万4,000円ということで、約70%増になっております。これは、先ほど所蔵作品展2回と。企画展1回だったものが企画展2回ということで増えたということでございます。

それから、4番目の項目としましては、緑地の維持管理につきましては、前年度が233万8,000円が269万3,000円ということで、15%ほど増えております。これにつきましては、維持管理の、いわゆる樹木の剪定と。これは今、3番目に説明をした、いわゆる500万。

先ほど、いわゆる資料的には4つの柱があって、3つ目の資料というのが、これでお配りしている事業の部分になります。運営とか、維持管理とか、緑地の維持管理については、事業とは直接関係なく、美術館そのもののということになりますので。それで事業的には、先ほど事業の部分が、平成20年度、今年度の予算が500万ということが、ここで言っている約845万5,000円ということで、ですね。トータルの合計がということで、これにつきましては60何%増えたという形になります。

事業の中身については、先ほど学芸のほうからご説明した内容で、この事業費の中身が構成されております。今回、事業費が増えているということなんですけれども、これは従来の形に戻ったというふうにご理解いただければと思います。

それで、例えば、細かい部分の運営、事業をやっていくためのいろいろな部分の必要な経費ですか。そういうものについては、徐々に財政のほうにも理解をいただいて、まだまだ不十分ではありますけれども、財政当局のほうで、美術館運営そのものの理解度が少しずつプラスになっているなというふ

うに、事務担当としては感じているところです。

【大野学芸員】 この縦組みの表の事業ですが、学芸員のかかわるところもありますので、私のほうからポイントだけ説明させていただきます。

まず、若干間違いがあるんですけども、最初の賃金。7、賃金とあるところの展示作品監視補助員賃金ですけども、これは企画展ⅠについていますがⅡです。Ⅰのほうにはついておりません。企画展が2つ復帰ということもありまして、両方とも同じレベルでやりますと、金額はとても膨らみますので、倍々に。いろいろ考えた結果、Ⅱのほうにだけ要求しました。これが何回か前の委員会でもお話ししましたが、60日ということで、この監視の方の人件費を要求してしまっていて、その日付、ついた金額によって、展覧会期間が決まるというような話をしていましたが、要求どおり60日つきましたので、ガラス絵展は60日開催できることになりました。

あと8番の報償費ですけども、これも所蔵展にはついていないんですが、企画展のほうに、1つずつついていきます。ただ、ワークショップのほうは少し頑張って主張しまして、ご理解もいただきまして、所蔵展も2つも合わせて、展覧会4回分にワークショップの講師謝礼がついています。あと、展示指導員謝礼です。これはお借りしている美術館の学芸員さんが作品と一緒にこちらに来てくださって、作品の展示・保管なんかを指導してくださるための賃金です。

あと、ゲストキュレーター謝礼。先ほども話ありましたように、田中絹代メモリアル協会の方に今回は入っていただいています。

【鉄矢会長】 よろしいですか。私もこういう、今、毎年度少しずつ、我々が運営協議会として、美術館の運営をいかにするために、表を試行錯誤してつくっている段階だと思うんですね。今これを見て、私は高いか安いかは判断しづらいです。比較するものがないというのが、まず大きなことだと思うんですけども、ほかの公立美術館というのは、どういう枠組みで、こういうものを情報公開しているのかを、徐々に、ちょっと見ていただきたいなと思います。情報公開しているときに、所蔵作品展に全体で幾らかかっていたのかとか、全体の割合ですよね。全体に対して所蔵作品展というものと企画展の割合が何%で行っているのが、だんだんだんだん、うちは教育費が、ほかの教育普及費がほかの美術館より大きいんだということは十分説明ができると思うんです。でも、まだ少ないよという話なのか、そういうふうは何

か指標になるものに、少し。今後も運営協議会って、いろんな方が入ってきて、見て、高いの、安いのという話になったりするんじゃないかと、何を考えていこうとか、3年間、過去のもこの表みたいにやっていくと、パーセンテージがこういう判定、全体額のこの判定なんですよなのか、それとも、基準として、どうしても外せない費用はこのぐらいあるんですよとか出てくるんだと思うんですね。それが、まだ、じゃあ、おやりなさいという表にならないと思います、僕も。ただ、徐々に表が整備されていって、今の運営協議会の次の運営協議会になった時点で、少しわかりやすくなったねという話の、少しずつわかりやすくなったねということをしなきゃいけないかと思いました。特にワークショップの講師謝礼、それからワークショップのアシスタントというものが、今、企画展の中に入っていますけれども、実はこれも教育普及部門の活動なんですよ。教育普及部門を重視した美術館として、目玉にしていきたい部分も以前からずっと出ていますので、そういうところで、今、教育普及部門って、これはたまたま事業の中で展覧会と切り離した今回のものを指していますよね。こうすると、ここが教育普及部門だというふうになってくると、ちょっともったいないのかなと思って、ここをどういうふうに工夫していいのか、僕もまだわかりません。でも、もったいないというのだけは見えます。予算を使って、これだけの市民に対して向けてやっているという活動の、これだけいいものが出てきている。その成果で、こういうふうにとれた。今度もやるんだよというのが、美術館全体の中で、こんなにうまく、低い額でうまくやっているというのものもあるでしょうし、たくさん額を持って展開しているというのものもあるでしょうし、そういうのが見える表になると、この事業予算というものの説明を受けたときに、あ、こういうことなのかというのがわかるかと僕は思いましたけれど、ほかの委員の皆さん、どうでしょうか。この表、こういう表をどういうふうに工夫していくかだと思っただけです。

【千村委員】 私はこうやって見ながら、例えば、自分がどこかで何か講師みたいなのをやったときにも謝礼みたいなものをもらったりした、そういったような金額から必死に割り出して、何人ぐらい来て、どうってなると、安いなと思っただけで見えていたけど。そういう感じで、比べるものないけど、日ごろのそういう講師活動みたいなのを比較して。

【鉄矢会長】 単価は多分、役所のほうでもう決まっていますので、そこは

もう、仕方を考えても、この仕方だと思うんですね、やり方というのは。ただ、ほかの表の中の、この美術館の特徴であるよというのを、市民に対して情報公開もしなきゃいけないわけですよ。市民に情報公開するときに、美術館の努力の成果がわかりやすく、それと美術館の経年変化ですよ。過去から、こういうふうに変化して、努力しているとか、動いているものをどういうふうに見せるかというところで、僕は多分、こういった教育普及というのが、今後も、この市としては強いんだと思うんです。だけど、教育普及にかかわるものをすべて集めちゃうと、そんなに予算いっぱい使っていたのという話になっちゃうのか、どういうふうなのかって、その辺の判断が、僕もまだ見えません。合計の仕方がわからないんで。その分、調査研究費、これしかないのかという話にもつながるのかもしれないです。

【大野学芸員】 来年度の特徴は、あとこの3年間での予算の変化の特徴は委託料だと思うんですけれども、今回、委託料に項目が5ありますけれども、新しいものがほとんど。今年度からついたものですね。今年度について21年度に継続されたものの他に新しいものが増えています。美術館の内容は専門的なものですか、作品の保護というものが大事ですので、どうしても専門の業者に委託するという部分が多い。それが大分、市の予算のほうにも反映されてきたというふうに思っています。

【鉄矢会長】 そうですね。多分、そういう予算に反映した理由を常に記録していかないと、もしかしたら学芸員さんも、10年後は違う学芸員さんがいるわけですし、そうなったときに、この予算はこういう努力でこういうふうを獲得していったというのは、戻って議会で説明しなきゃいけない場合も出てくるでしょうし、ぜひ、このスタートのところで、表組みの、毎度毎度いろんなリクエストが出てきて、じゃあ、どうすりゃいいんだよというのが、多分、一番の内容だと思うんです。でも、ぜひ、わかりやすく、市民に向かってわかりやすい説明と、美術館のやってきた努力とか改善というのが、こういうところに見えてくる格好で顕在化できると、いろんなところの説得材料になるかと思います。説明を聞いていても、情報を追いかけるだけになるとつらいです。

【加納指導室長補佐】 そうですね。先ほど言われているように、ここの部分が今回の特徴ですよ。今年度は、ここのところが中心なんですよというのが見れてくると。例えば、これを見ていても、企画展ⅠとⅡの数字だけか

らすると、どこが違ってくるのかなというのが、同じですよ。例えば、講演会の講師謝礼といっても同じ値段だということであれば、それはそれでいいのかもしれないんですけども、そのそれぞれの特色が、もう少し数字から見えてきてもいいのかなということが。

【鉄矢会長】 何かそれぞれの特徴と予算がリンクすると良いですね。

【加納指導室長補佐】 はい。

【鉄矢会長】 難しいですね。この縦枠で、ずっとこの縦のラインで、下で、パーセンテージ、右、一番右が100%で、次から何%、何%、何%ってやると、企画展1本に何割かかっているのか。所蔵作品展が何%、これが何%、それで最後の別立て教育費は何%。横軸も、こうやって右に持って行って、報償費で何%、旅費で何%、事業費で何%、役務費で何%とかいうのが枠が一定であれば、それは毎年の変化が、割合が見えるというのが1つあるのかなと。少しずつ……。ただ、さっき言った教育普及が、各展覧会の展示に教育費をつける。

【大野学芸員】 はい。あと当館の場合は、全体の予算における何%ぐらいが教育普及かとか、それで力を入れているかどうかというのもあるかもしれないんですけども、基本的な美術館として絶対外せない予算というのが、まだこれから少しずつ固めているところで、それがまだ足りないという状況ですので、委託料もそうです。例えば、美術品運搬ですけども、美術作品は美術品専用の車で運搬しないとイケません。でも、その予算がなかなかとれないというような状況で、例えば、田中絹代展の場合は少し工夫しています。

【鉄矢会長】 そうすると、美術館の基盤費みたいなものを、そのうちのどこかにつくっておいて、その基盤費が、常に幾らとれているよですとか、とれましたよ、去年からやっぱり減ったよとか、減ったら一大事なんだよという話とか、そういうところが見えたほうがいいのかもしいですね。その残りの部分を何%の割合で分けていくよとか、そういう雰囲気の話ですね。オフレコで。そういう工夫したほうが。何かそういう工夫できると、見えてくるもので……。 はい。続けます。では、予算についてはよろしいでしょうか。では、その他に入りまして、入館者数の報告。事務局のほうから説明をお願いします。

【事務局天野】 入館者数につきましては、ご提出している資料をごらんい

ただきたいんですが。4月1日から本日まで、3月中。現在、展示替えのために休館をしておりますので、実質は3月8日までの分の数字でございます。大人、子供、有料の入館者数、それから無料の入館者数、それから下の欄につきましては、各展示ごとの入館者数ということでございます。一番下のところに開館日数、それから入館者の平均ということで、各展示ごとの開館日数、いわゆる展示日数と、それから1日当たりの入館者数を明記してございます。それで、上の表と下の表の合計の欄が若干数字が違っております。これにつきましては、2008年の所蔵作品Ⅰの展示が3月29日から行っているということで、年度をまたがっております。下の欄については、前年度の3月末までに入った方の数が、ここに加算されているということで、4月1日からの入館者数と、展示後に入った数が、この差として出ているということでご理解いただきたいと思います。

前回のときに、会長のほうからご指摘をいただきました、団体の無料の中に今までは児童も入っており、団体の一般の中に計上してございました。児童の数を把握したほうがいいというご指摘をいただきましたので、表に加えて、児童の数が11月からカウントできるようにいたしました。したがって、10月までは児童が一般の中に含まれているということで、児童の数はこの表ではカウントできないんですけれども、一応、そういうことで統計的には分けられるようにしてございます。

細かい数字、またご説明すると時間が長くなってしまいますので、詳細については、この中身を見ていただければおわかりになるかなということで、以上でございます。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。ご意見、ご感想をお願いいたします。

【加納指導室長補佐】 すいません。質問だけです。10月が2つに分かれているのは、これは作品展が2つに分かれているからというところよろしいんですね。

【事務局天野】 はい。そうです。下の欄を見ていただきますと、2008所蔵作品展Ⅱというのが10月5日まで開会してございまして、それから、その次の企画展「松本市美術館展」が10月21日ということで、10月の前のほうの数字というのが所蔵作品展Ⅱということでご理解いただきたいです。後のほうの10月が「松本市美術館展」の入館者数とご理解ください。

【加納指導室補佐】 もう一つ。11月の入場者が飛び抜けて多いんですね。

れども、これは何か理由があるのでしょうか。

【鉄矢会長】 無料開放日じゃなかったでしたっけ。文化の日。

【事務局天野】 無料開放は10月の前半でした。企画展のほうが1つ。

【鉄矢会長】 44.3、平均が1日です。

【加納指導室長補佐】 はい。1,128名ということで。

【事務局天野】 やはり気候も影響するのかなと思うんですね。11月という  
と、いわゆる晴れの日が多いとか、気候的に穏やかとかというような形で、  
そういうのが結果として。

【千村委員】 展示されている絵もよかったですね、今回。

【事務局天野】 そうですね。

【神津学芸員】 NHKの日曜美術館のアートシーンで紹介されてました。

【加納指導室長補佐】 そういう告知がされていたというところで、やはり  
来場者が増えたということですね。

【神津学芸員】 ことは特に効果的な広報ができたと思うんですけど。

【鉄矢会長】 この日平均44.33というのは、結構込んだ感じするんで  
すか。まだまだ行けそうな感じですか。

【大野学芸員】 鑑賞の妨げになるほど込んでいるわけではないです。

【鉄矢会長】 倍はいけるぐらいなんですか。

【大野学芸員】 そうです。倍はいけますね。

【鉄矢会長】 無料開放の日だと、1日何人ぐらい。

【神津学芸員】 200人です。

【鉄矢会長】 200人。では5倍。4倍か5倍……。

【事務局天野】 10月の4日と5日です。

【神津学芸員】 最終日より4日のほうが入ったんですが、最終日が17  
0何人とかでした。ゴールデンウィークが、1日で80人という日があって、  
その日、80人ぐらいが、ずっとお客さんが流れているという。それが多分  
ピークの日で80人ぐらい。無料開放の日になってしまうと、ちょっと多い  
ですね。

【事務局天野】 この数字、上のほうの数字を見ますと、月ごとに、例えば、  
松本市美術館展の10月の分が131人とかは、大人の分ですね。それから  
11月が775人、それから12月が274人ということなんですけれども、  
10月21日から12月7日ということですので、10月に開催している日

数と、11月の開催日数、それから12月は7日しかないということですので、平均すると44.33人ということです。数字的には131人と775人と274人という開きがあるんですけども、コンスタントに入館していたのかなというふうに感じます。

【鉄矢会長】 私が気になって、こういう発言したのは、多分、小金井市の人口が十何万人ですよ。

【事務局天野】 約11万です。

【鉄矢会長】 11万人ですね。11万人いる中で、市の持っている美術館に何人入るかという計算されると、とんでもない数になる。でも、美術館の規模からして適正な規模というのが、1日平均当たり50人で、ピークはこのぐらいあるけど、ピーク率からすると、こんなもんだけど、1日平均50人だと。これを15年後にこのぐらいを目指すんだよという中の安定低成長の数値目標がもし内々で、表に出すわけじゃなくて、内々で、やっぱり自分たちの活動の励みとして見てもらいたい企画をやったときに、広報を打てば打つほどいいわけでもないけども、効果的に広報打とうと思ったときに、どういう広報打って、あ、うまく今回は安定低成長の目標まで行けるか。そんな、ずば抜けて、ここまで急に行くんじゃないけれども、すごい薄くなって、他の美術館が、学芸員さんにもぎわって寂しくない状況のいい感じになるという、いい感じで少し動きながら、週末はこのぐらい来るとかいうのの1日平均入館者数というのと、そういうものを持つと、今回合計で5,900人だけど、実は最大でねらっているのは8,000人ぐらいでいいんだったら、15年後に8,000人にしようよとかいう気分で、少し上がったたり下がったりしながらでも、美術をどういうふうに市民に普及させるかとか、市内外でしょうけれども、そういう動きになれるのかなというのが僕の頭の中でぐるぐる動いていて、こんな質問していました。自分だったらどうするんだろうと考えた中で、自分で、何が進んでいるのか。美術を普及させるというか、美術という文化を普及させる中の、カルキュレートしながら、ふわっと、砂に水まいてみたいな、すーっとなるのが、大体美術なんですけど、そうじゃなくて、やっぱりせつかく美術館として、だんだんだんだん注目を浴びてくる中での薄い動きも内々で持つというのも計算の仕方の方の方法としてあるかなと思って、ちょっと考えてみた次第です。数値目標は出さないほうがいいと思います、目標としては。ただ、自分たちの中での、何となく美術館

がどのぐらい込んでいると気持ちいい美術館なんだろうというのを持っていたほうが、数値的なのが、松本市美術館展の40人が多いんですか、少ないんですかと僕が言ったのは、気持ちいい感じがした、あの期間の展示は気持ちいい時間と、せつかくあの位置にあつて、気持ちいい時間を過ごせる美術館なので、その雰囲気壊すような人数は、僕は要らないと思うんです。その人数が気持ちよく動けるような規模というのが出てくるのかなと、ちょっと思いました。

あとは、どこがいいんでしょうね。年度初めなのか、年度末なのか、どの時期がいいのかわからないですけど、やっぱり19年度、18年度の様子が見えるものが1枚欲しいですね。今までの18年度、19年度の1回目から2回目の企画展、何とか展、何とか展、何とか展というのの推移なのか、もうそろそろ数がそろってきたので、どうしても単年度予算で単年度で動いて単年度報告なのが多いんですけども、そこだけは市役所、市立だけちょっと違うのかなと。それが右肩上がりが決していいわけではないと思っていますが、挑戦すれば右肩が下がる場合もあると思います。でも、それを市民も受け入れて、挑戦している美術館だと思うのしかないと思うんです。右肩上がりを目指せと言ったら、アニメーションをやったり、何かそういう客寄せになってきちゃって、それを僕はいいと思っていないです。だから右肩上がりを目指すんじゃないですけども、何かいろんな試行錯誤のものがうまく見えるのと、決して美術は単年度ではないという意識も持ちたいと思います。長くなってしましまして済みません。

【千村委員】 質問なんですけれども、大人の入場者という中に、若い人というのは、どれくらいの率ですか。若い人と年配者というか、どんな感じですか。

【神津学芸員】 若い方は少ないですかね。

【千村委員】 少ないでしょう。ねえ。

【神津学芸員】 ただ、学芸員課程のレポートのために来たとか、あとは建物を見にいらっしゃる。建築の関係の方。一番少ないのは高校生。高校生はほとんどいないです。ゼロに近い。

【千村委員】 高校生なんか、一番感性の、何というかね。中学生から高校生というのは、こういうものに一番感じてほしい時代なんだけれど、なかなか、私も見に来たときに、そういう人に出会わなくて、大抵自分ぐらいの人

が来ているのでね。

【神津学芸員】 喫茶棟のオープン・ミトンカフェがあるおかげで、こちらが目当てだったけれども、美術館があるんだったら入ってみようということで、入ったらよかったという話も聞きますので、先ほどの繰り返しになりますけど、高校生はほぼゼロに近いですけど、若年層がいないというわけでは、決してないと感じています。

【大野学芸員】 開館1年目のときと比べましても、印象ですけども、若い方といますか、若いご夫婦ですとかは増えてきたように思います。はけの道を散歩している若い家族。小さい子供とお父さん、お母さんですとか、喫茶棟に行った帰りの奥様方とか。

【千村委員】 一、二年の間に、あの辺に一戸建ての家がいっぱいできたということもあって、学校なんかも、子供たちが増えているという。南小なんかでも減らないという感じだから、そういうことも関連して、散策するというのはいいですけどね。

このはけの森美術館では実現できないかもしれない、今のところはできないと思いますが、この間も、さっき話したように、私は茨城県立美術館にいたときに、70歳以上の人はただなんですよ。それで、私、70歳でただだったんですよ。もう一つ、芸術館も行ったらただだったんですよ。だから、電車賃だけ出して、美術館全部、ほとんど1,000円、1,200円のものがあったということは、ちょっとこれは、私たちぐらいで美術を見に行くという人は、ただにしてもらわなくてもいいというか、学生を、大学生とか高校生が、ただでなくてもいいけれども、ちょっと割引されていて、こういう高齢な者は、見ようと思えば、それなりの気持ちで行っているわけだから、そこはただにしないほうがいいとつくづく思って、アンケートしてみようかなと思ったんで、自分が得しておいて、そういうことを言うのも変ですけども、かえって高校生や中学生が値引きされていて、こういうのに接する機会があるほうが理にかなっているなと思います。

【事務局天野】 貴重な意見、ありがとうございます。

【鉄矢会長】 では、一応、議事内容に関しては最後の21年度の運営協議会の開催日程ということで、事務局のほうから。

【事務局天野】 開催日程について、年4回の予算が組まれております。それで、実際、今後、4回やるべきなのかということでの議論があるんですけど

れども、これまで必要に応じて3回ということで、きょうが20年度の最後のということで、今までですと、予算の前にご意見ということで、大体8月ないし9月に1回目、それから12月ぐらいに2回目、それから3回目が3月ぐらいにということで、今まで実施をしてきているんですけども、来年度も、予算化は4回予算化されているんですけども、3回ぐらいをめどに進めていきたいなと事務局としては考えております。もし、緊急に必要な場合には、途中で1回入れるというようなことで、都合4回というような形にしたいと思っておりますけれども、いかがでございましょうか。

【鉄矢会長】 議会がいつなんですか。6月議会というのは…。

【事務局天野】 6月中ですね。6月中約1か月です。

【鉄矢会長】 議会のこと、わからないのですけれども。定例会という意味で、第3回定例会、第2回定例会ということになって。

【事務局天野】 これが日程です。それで、予算編成は、大体11月ぐらいからになります。

【鉄矢会長】 わかりました。

【事務局天野】 ですから、スケジュール的には、この辺で1回、それからこの辺で2回目、これで3回目ぐらいかなということです。

【鉄矢会長】 この1回目は、だから、予算を決める前に、計画案ですね。計画案を運営協議会の方に出すのがここで、それで予算を組んだ結果で、こういうふうになりましたよという。年度の報告が、ここというので3回。

【事務局天野】 この1定のところで、予算委員会で来年度の予算と。

【鉄矢会長】 決まるということですね。

【事務局天野】 はい。

【鉄矢会長】 だから、実は年度初めのときに、委員はやっているけど、何も動きがないけれども、気にされている部分もあるんですね。学芸員としては動き始めた。新年度なんだから少しというのものもある。セレモニーでもやったほうがいいのか、でも、セレモニーでも、もしかしたら美術館に行ってやるということもありますね。こういうところじゃなくて、美術館の展覧会の会場で、会ってしゃべって、意気込みを聞くと。施政方針演説じゃないですけども、学芸員の気概を聞くということのもあっても、別に僕は悪くないと思うんです。宣言。新年度宣言というのが。やりますか？

【大野学芸員】 あと、4年目になりますし、これまでの運営協議会での積

み残しの継続議題ですとか、そういうものを話し合いたいというような話が何回か、前回ぐらいから出ていますけれども、その整理ですね。

例えば、こちらの事務局のほうで、今までの議事録から拾って、継続でこれを話しましょうというようなお話があった内容を議事録から拾っていつて、それを整理したものを、4月、5月あたりの早い時期にお出しして、どの内容についていつの時期に話し合うかということを審議していただくとか、そういうことができれば、予算も大事ですけども。

【鉄矢会長】 そうですね。これが一番、そうです。

【大野学芸員】 はい。そういうのも。

【鉄矢会長】 積み残しのものを、積み残しの人数をもう少しとか、常勤じゃなくて、何で非常勤なんだとかいう話がずっと残っているので、そのものと、七色に使われちゃ困ると言われている提言書。提言書をしっかりした計画に変えていくこととかもやらなきゃいけない。そうすると、それをやりましょうというのと、そのための、またワーキングを作ったり、いろんな人を呼ぶというのを予算をとらなきゃいけないですよ。予算をとって、こうやっていくという段階ですね。だから、そういうのを今度はこの辺にあったほうがいいよと。この展覧会の様子はわからないんですけど、評価、ある程度したところで、こういうふうに、今年度の中で、この予算に向けて、ここで来年度予算の来年の計画を。来年の今までやったクリアする課題とか、それがすぐにクリアできるのか、翌年クリアできるのか、翌年じゃ全然クリアできないのかわからないですけども、そういうものを、見えてくるものを1回やって、あとは例年どおりのこの会議をやって、ここに1回やりましょうか。

【千村委員】 いいですね。

【鉄矢会長】 今までいっぱいしゃべっていたものがちゃんとしたものに。

じゃあ、すいません。この辺はお任せします。日程の細かいところは、学芸員の美術館のほうにお任せして。ただ、期限としては、2定というところの前まで、この辺までに第1回目をやりましょう。第2回目は、この、これが第3回目で、第4回目は一応締めという。

【大野学芸員】 今のだと、議事録の関係がありますので、何月とおっしゃっていただいたほうがいいかと。

【鉄矢会長】 わかりました。議事録として。

では、2定の前の6月前に1回目、それから9月前のところですね。8月

の終わりか9月入ってすぐくらいのところで2回目、それから12月の多分前半でしょう。できれば、3回目。

【事務局天野】 後半ぐらいになると思いますね。

【鉄矢会長】 後半でもいいです。

【事務局天野】 いいですか。

【鉄矢会長】 12月で、年度のおしまいのところの3月の初めのほうが、いけるといふことでしたら4回目というふうに、本年度の運営協議会の開催日程としたいと思います。

その他。その他のその他です。何か、美術館の運営協議会として、こうあるべきだとか、まだ、この話で、もう少しやろうよとか。

なければ、第3回の小金井市立はげの森美術館運営協議会のほうは閉会したいと思います。ありがとうございました。

【神津学芸員】 ここでお話いただいたほうがいいですか。

【事務局天野】 明日、総務部長が委員長の有償頒布物の価格決定委員会が開催されますので、ちょっと運営協議会の意見が欲しいと思います。

【大野学芸員】 意見だけでも、聞きたい……。

前にも委員会のほうでお聞きしましたがけれども、印刷製本費の予算がありますので一筆箋はつくることにしたんです。一筆箋の販売価格ですけれども、設定を近隣館の価格ですとか調べてみましたりした結果、同規模館の最低価格あたりが200円だったですので、そこに合わせて200円ということにしたんですけれども、市のどういうあれかわからないんですが、いろいろな規定で……。

【事務局天野】 小金井市の有償頒布物についての価格等を設定する検討委員会がありまして、そこに諮っているんですけども、小金井市の基準というのが、予算の1枚当たりの単価に対して切り捨てて売値を決めるということらしいんです。ですから、今回、私ども担当レベルでは200円が近隣の中で一番安いということとあわせて、美術館としての美術品の価値を上げたいという意味も含めまして、予算的な制作費の単価が1冊当たり130円ぐらいだったんです。私どもとすると、それを若干、今後の印刷等の部数とか、そういうものを照らし合わせて値段を簡単に変えるわけにいかないんで、近隣に合わせて200円という設定で諮問をしたところなんですけども、委員会の中で、切り捨てて100円にきなさいと。100円にすれば通るけれども、

200円にするという根拠づけをきっちり説明してくださいというふうに求められてしまったものですから、ちょっと委員の方に、その辺の専門的な立場でご意見いただければなというふうに考えております。

事務方としますと200円というのが、他市の美術館においても、いろいろな価格設定がされておりました、私どもが見た中では200円というのが一番安かったと。それから、私どもの所蔵作品を一筆箋の中に盛り込んでいますので、芸術品的な価値そのものも上げたいというような部分もありまして100円ショップ等で売っているものとは違うよというようなことで、ミュージアムグッズとしてのクオリティを高めていきたいということと、それから中村研一画伯の作品であって、作品は市のほうに寄贈いただいているんですけれども、著作権がまだあるということで、著作権料は請求はされていないんですけれども、著作権というものがバックにあるというようなことから、価格設定を安くしたくないという、ちょっと変な言い方ですけど。

【鉄矢会長】　しっかり著作権料払ったほうがいいんじゃないですか。著作権を、逆に言うと、どういうふうに……。この大きさだから、これで市の記念美術館だから、特別に100円を。1セット売するのに100円の著作権で、しっかり売値として200円を維持してやって、もうけたいわけじゃないわけですね。

【大野学芸員】　そうです。

【鉄矢会長】　だから、売値として、市の売値で入れて、それを印刷物としての売値は100円のほうがいいですよ。でも、そこにちゃんと何か付加価値があるから200円でというんだったら、その付加価値をしっかり明らかにして、夫人との契約なのか何かで、著作権でちゃんと納めちゃえばいいんじゃないですか。それを著作権として。

【大野学芸員】　今まで図録ですとか、ポスターですとかで使っているわけなんですけれども、そういうものもずっと無料でやっていただいていたし、これだけ納めるというのも。

【鉄矢会長】　変だと。

【大野学芸員】　変な話。公立美術館で……。そうですね。

【神津学芸員】　著作権者の意向……。

【大野学芸員】　その展覧会によって違うので基準がないんです。

【鉄矢会長】　基準がないのだから、基準がないからこそ。

【神津学芸員】 そうすると、予算も計上しなきゃならない。著作権使用料。

【事務局天野】 今回ないんです。

【鉄矢会長】 ただ、印刷物として扱われるのは不快ですよ。それが、印刷物というのだから100円なんですよ。印刷物じゃないんですよ。

【事務局天野】 芸術作品だという観点を維持したいなというふうには思っ  
てはいるんです。

【大野学芸員】 100円ショップで売っているのと同じだと困るんです。美術館としては。

【事務局天野】 ちょっと余談になりますけれども、はがきが今、私ども12種類あり1枚50円で売っているんですが、お客さんから「え？50円？」というふうに奇異に言われるのが多いです。安過ぎるという。たまたま田村一男とか、あるいは堂本印象のはがきを、私ども求めて売ったときは1枚100円で売ったと。同じ美術館の中で100円と50円があるものですから、そこは50円でも安いねという。

【鉄矢会長】 だから、やっぱりその中で、印刷物じゃないというところのすき間をどうやってつくるかですね。

【大野学芸員】 普通の印刷物の基準を、そのまま美術館に当てはめられてしまうと困るんです。芸術品の価値が下がってしまう。

【鉄矢会長】 そうですね。

【大野学芸員】 上げたいというよりも、下がってしまうということですね。

【鉄矢会長】 だから、その価格が増えた分を、違うところにちゃんと納めるような何かにすれば、例えば、著作権という名前じゃないものだとしたら……。

【大野学芸員】 許可はいただいています。

【鉄矢会長】 でも、ほんとうは美術館が許可をするんですよ。もしかしたら。

【大野学芸員】 著作権の……。

【鉄矢会長】 著作権じゃなくて、美術館が……。

【事務局天野】 私ども、ずっと検討委員会のほうに、200円で上げたいというふうに上げたんですけど、130何円だから、切り捨てて100円だよという基準を言われてしまっている。200円に上げたい確固たる理由を持ってこいということなんです。

【鉄矢会長】 全部切り捨てなんですか。150何円でも切り捨てだということ？

【事務局天野】 みたいです。極端な言い方すると、199円でも切り捨てて、100円にしなくてはならないのかなと個人的には思っているんですけどね。それはちょっと余談としても、ちょっと一般の刊行物とは違うというところをアピールしたいなどは思っています。ただ、通用するかどうか、ちょっとわからない。説得できるか……。

【大野学芸員】 他の公営美術館の例を出すぐらいしかないですね。

【千村委員】 美術館グッズというのは、そこら辺の100円ショップと違って、美術館の作品の1つみたいにして買って帰って。

【事務局天野】 そうなんですね。

【千村委員】 例えば、うちわにしろ、はがきにしろ、そういうものがあるから、ちょっと価値が、こういうのは。

【事務局天野】 だから、50円と言われると、「えっ？」と言われてしまうのが多いんです。50円だからいいねと、結果的にはいいんでしょうけども、安過ぎるねというふうな言い方のお客さんが結構多いものですから、それは委員会のほうには、こういう実態もありますよというふうに説明はしたいなどは思っていますが。

【鉄矢会長】 その委員会が月曜日にありますので、できるだけ月曜までに、メールとか、ああいうようなあれで。だから言葉が欲しいですね。

【大野学芸員】 そうです。幾つか理由を羅列しているんですけども、もう1つでも2つでも。

【鉄矢会長】 他市並みにするということだけでは根拠は薄いということなんですね。ですから、その200円という理由づけが、ほかにこれだというものがあれば。

【大野学芸員】 ミュージアムショップで何か買うということの、その楽しみというのは、100円ショップで買ってきたり、文房具屋さんで買って来ることではなくて、そこで自分でこれだけのクオリティーのものを買って来たという。絵を見て、その後、ミュージアムショップでお買い物をする喜びというのも、やっぱりそれは1つの喜びだから、それをちゃんと保証するという意味では、ちゃんとした価格設定が必要だろうなと思います。

【千村委員】 中には、展示見ないで、絵見ないで、ショップで買うのが楽

しみな人もいるぐらいだから。

【大野学芸員】 その基準を想定しているのは、市の刊行物ということで、市政要覧とか、そういうものしか想定していないんですよ。それはだから価格、実費よりも高くしてはいけないということなんです。

【事務局天野】 だから違うよというところのアピールをどういうふうにするか。

【大野学芸員】 だから、それはやっぱりほかの刊行物と違って、美術館で買うものというのは、美術作品とは言わないけれども、それに準ずるような扱いをしないとね。

【事務局天野】 それの一部をね。

【大野学芸員】 やっぱりちょっと違うんだということ。

【鉄矢会長】 それを印刷物としてやったら、やっぱりその基準になるから、そうじゃないものの基準を当てはめてもらうようにね。

【事務局天野】 美術館運営そのものというのは、小金井市は、先ほども予算の中でも申し上げたんですけど、美術館運営そのものの経験が少ないと、ないということがあるものですから、やっぱりそういうところにも一たん出てくるのかなという気がします。

【鉄矢会長】 何ていう名前なんだろう。わからないね。その美術館……。

【大野学芸員】 印刷物じゃなくて、何だと言えればいいんでしょうね。

【鉄矢会長】 それがあると。

【大野学芸員】 それが何かいいのが。

【千村委員】 グッズとか。

【鉄矢会長】 グッズとかじゃ……。

【大野学芸員】 でも、複製品ですよ。複製なんですよ、あれは。美術品の複製を販売するんだから、それはもうブランドの価値が下がるような値段はつけられない。

【鉄矢会長】 そうです。製品の複製でいいですよ。だから複製品を売るということで。

【大野学芸員】 複製品ですよ。

【鉄矢会長】 その辺が、ちょっとあまり。僕のしゃべりが悪いんで、こういうのを、ちょっと整理していただきたいのというのがあるのと、あとちょこちょここと。すいません。

【千村委員】 『武蔵野夫人』なんていうあれは、一筆箋みたいのもあるといいね。そこまではね。

【大野学芸員】 一筆箋、すごく難しいんです。田中絹代自体が著作権とか肖像権とかを持っているんで。

【鉄矢会長】 どうもありがとうございました。

【事務局天野】 ありがとうございました。

【鉄矢会長】 すいません。どうもありがとうございました。

—— 了 ——